

明治24年（1891）三重県鈴鹿稻生字一色村に生まれる。尋常小学校卒業後各地で丁稚奉公を続け、明治40年（1907）渡米の夢を抱いて京都から上京。渡米資金稼ぎと英語修得のため英國大使館下コックとなる。渡米断念後、大正11年（1922）新宿にレストランを開店。

その後、食品製造販売を手がけ新宿角筈一丁目北町会（現歌舞伎町）の町会長となる。

終戦後、戦災復興を実現する手段として土地区画整理事業が位置づけられ住民主導の組合施行による土地区画整理事業の実施が、東京都においてのみ8地区認可された。内一地区が鈴木組合長による新宿歌舞伎町地区である。当地区は組合成立前から鈴木を中心とした私的な団体である復興協力会が事業を進め、自力で歌舞伎町復興のマスタープランを作成していた。その後、新宿復興株式会社となり、また行政処理上の問題から復興土地区画整理事業組合を成立、株式会社と併立して事業を進めた。



鈴木は戦前からこの地の実力者であり、末代のためと考え、私財を投じてこの組合地区復興を完成させたといふ。疎開先の日光中禅寺湖で敗戦を知り、翌日上京。從前地権者の消息の確認から着手、同年10月27日には協力会第一回総会が開かれるまでになった。その後、都係官石川栄耀や復興院小林一三らに幾度となく足を運んだという。専門的な学問を受けていないが図面作成を愛好し、終戦後数日で確定図に近い平面図を完成していた。また歌舞伎座を誘致し（実現はしなかった）、商業地（歓楽街）にしようとした鈴木の構想は「歌舞伎町」という名前として残ると同時に現在の土地利用に結び付いている。また街区計画面でも都市防災を想定した細街路配置など特徴的なものになっている。

昭和25年（1950）新宿において東京産業博覧会が開催された。この街の復興を国民に見てもらおうとの鈴木の尽力によるが、莫大な赤字を出してしまい、鈴木は表に現れない存在になった。組合が一切の事業を完了したのは昭和33年（1958）のことである。昭和44年（1966）9月20日享年78才で没す。